

小山先生の訃報に接し

山本 英生

小山先生の訃報に接し、先生のにこやかな笑顔と、優しい言葉での授業のこと、そして何より私たちゼミ生に対して、その論文指導を本当に真摯に行っていただいたこと、そんなことが真っ先に頭に浮かびました。

私は、2016年4月にLEC会計大学院入学させていただき、2018年3月に卒業するまでの2年間、小山ゼミの一員として直接ご指導いただきました。

私自身は、大学院に入学する時から研究テーマは決めており、もともと勤務していた生命保険会社の生命保険商品の法人経理処理をテーマとして研究したいと考えておりました。そのことをお話させていただくと、その方向性などについてのアドバイスはもちろん、テーマに関するようなさまざまな文献、資料を次々と見つけお教えいただき、ご指導いただきました。もちろん私だけでなく、一緒にご指導いただいていたメンバーみんなが、同じ感想を持っており、あの忙しい中、よく私たちひとりひとりのテーマの資料を見つけるお時間をとっていただけたと当時も感謝していたのですが、今になって税理士の仕事をスタートしてみると更に、先生のご指導に、より感謝が増します。相当な量の文献を常に研究されていたからこそ、私たちの様々なテーマに関する資料などを見つけていただけたのだと思いますと、その時間にどれだけの時間を

割いていたのだろうと今更ながら驚きます。

当時、ご自身の研究もされており、その発表の前には泊まり込みで準備をされるとお伺いし、真摯に研究に取り組むという姿を私たちに背中で見せていただきました。

先生にはご指導いただいているゼミ生全員で、前期終了後に実施した宴席にもご参加いただき、私が元の会社関係の施設を設定しましたら大変喜んでいただけ、飲みながらの懇親で一気に皆さんと懇意になれたことなどいい思い出です。

そんな中、卒業半年前の私たちの論文が一番佳境になる頃、小山先生の入院というお話が伝わり、不在の間も山本先生を中心にご指導いただき論文完成に向けて進めておりました。12月に先生が退院されゼミに出席いただいた際、私たちは本当にお痩せになったお身体を心配していたのですが、先生は闘病中も私たちの論文を心配していただいております。かえって励まされたことが忘れられません。

卒業式でお目にかかって、「おめでとう」と一言おっしゃっていただいたあと、私たちは国税庁への申請書をできるだけ早く送付したく、挨拶もそこそこにその場を離れ送付後に二次会に向かいました。しかし、そこに小山先生はおられなく、直接しっかりと御礼をお伝え出来なかったこと、せっかくの機会を逃してしまったことに今更ながら後悔しており

ます。

今回、ゼミ仲間に先生の思い出を聞きましたら、いろんなトラブルが起きた時も、いつも笑顔で励ましていただき、「必ず卒業して税理士という目標を達成してください」とおっしゃっていただけたという話を聞きました。先生ご自身が税理士という仕事に本当に誇りを持っておられ、その仕事を私たちが目指し、就けるようになることが、いかに素晴らしく、夢があるのか、ということをいつもお教えい

ただいていたように感じます。

生前の先生の指導に、深く感謝しますとともに、先生に直接ご指導いただくこと、さらには先生の仕事への向き合い方や、スタンスなど間接的に教わったこともしっかりと守りながら、今後の自分の仕事を進めていきたいと思えます。

本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りしております。